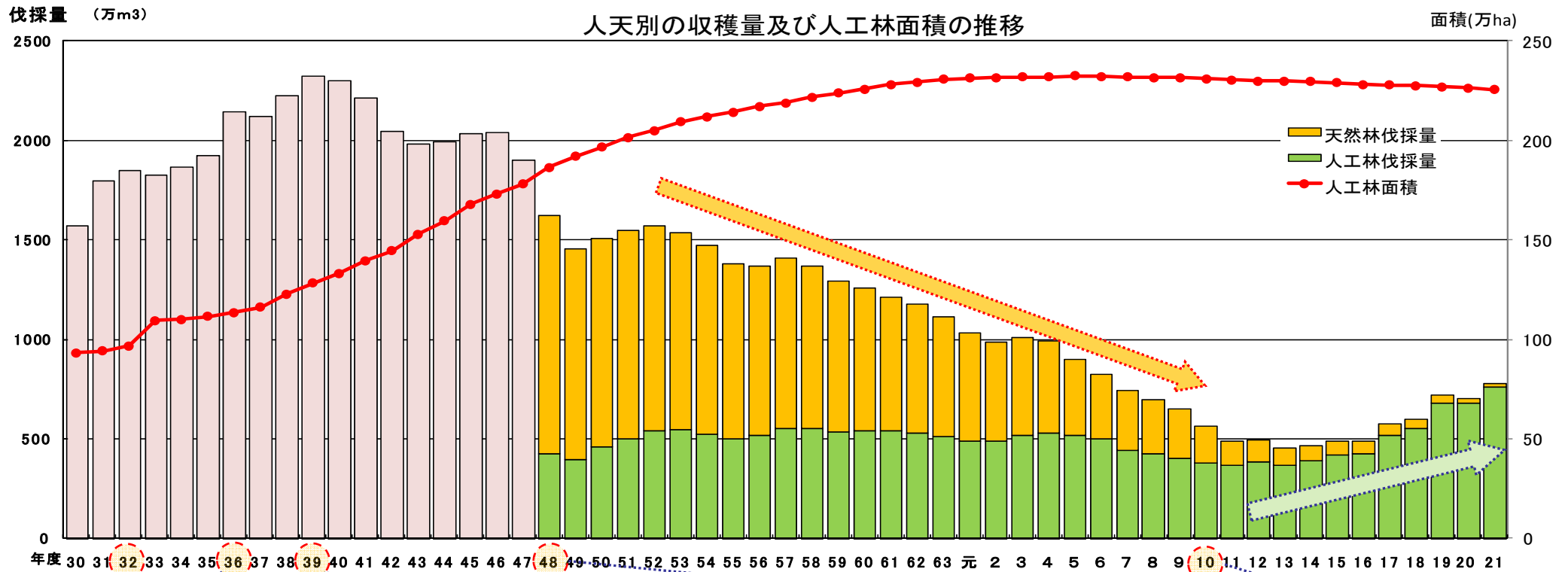


国有林材の伐採量と今後の見通しについて

◎ 国有林では、森林計画等に基づき事業を実施してきたところ



- ・ しかしながら、それぞれの時代における国民の要請に応じてきた結果、平成13年度まで収穫量は減少傾向で推移してきたところ
- ・ その内訳は、自然環境の保全に対する国民の要請の高まり等から、天然林の収穫量は著しく減少したのに対し、人工林の収穫量はほぼ横ばいで推移し、近年は資源が成熟化しつつあることから増加傾向となっているところ



S32 国有林生産力増強計画
S36 国有林木材増産計画

S39 木材輸入完全自由化

S48 国有林野における新たな森林施業

・公害問題を契機とした自然環境の保全等への要請の急速な高まりを受け、多面的な諸機能の高度発揮を旨とした施業の推進（皆伐施業の伐区上限面積の縮小、伐区分散、天然林施業の採用等）

➡ S36の木材増産計画を事実上修正

H10 抜本的改革

・国有林野を名実ともに「国民の森林」とするため、木材生産機能重視から公益的機能重視の管理経営への転換（公益林の面積割合の拡大、長伐期化、複層林化、混交林化の推進、拡大造林の原則禁止等）

(注) S47以前は、人天別の収穫量の統計が無いいため、総収穫量を示している。

- ◎ 平成10年に、公益重視の管理経営の推進等を目的とした国有林野事業の抜本的改革を実施したところであり、その際の収穫量の見通しに対しては、現在までほぼ見込みどおりの収穫量で推移しているところ
- ◎ 今後、さらに人工林資源が成熟化することにより、見通しに沿った収穫量が見込まれるところ

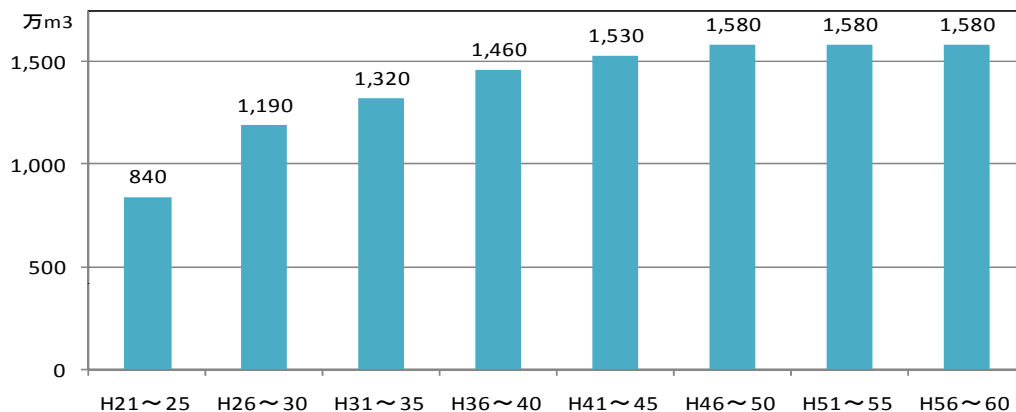
○ 平成10年の抜本的改革時の収穫量試算と実績の比較

	万m3										
	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
試算	460					670					
実績	480					620					
	488	491	452	464	486	486	574	599	720	704	780

※試算及び実績の上段の数値は、5年間の年度平均

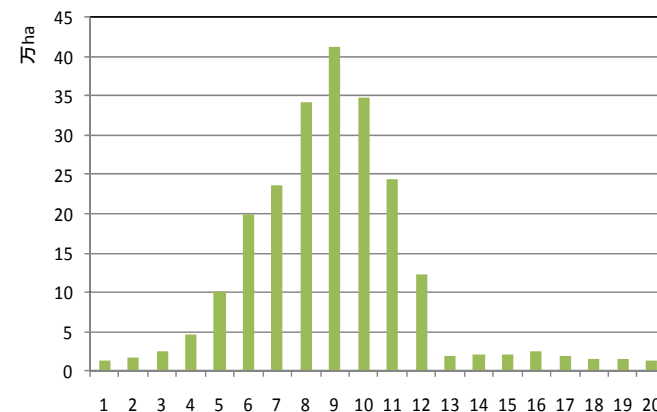
H11~H20の間における試算に対する実績の比率 **97%**
 (試算：10年間で5,650m3 実績：10年間で5,464m3)

○ 今後の収穫量の見通し（平成10年の抜本的改革時の収穫量試算より）



※数値は、5年間の年度平均

(参考) 現在の人工林資源の齢級別配置 (面積)



※H22.3.31現在